

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代の国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	探求現代の国語（桐原書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考査	体験と思索Ⅰ 評論Ⅰ 評論Ⅱ	・筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。 ・文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることとともに、日本の文化や言葉について自分の考えを深める。 ・論理性に着眼して評論を読み解く方法を学んで筆者の考えをまとめ、現代の科学や創造的に読むことについて自分の考えを深める。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○	○
2学期	中間考査	評論Ⅲ SDGs番号8：働きがいも経済成長も 経済や社会に関する文章を読み、社会や個人のあり方について話し合う。	・文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深める。	○	○	○
		評論解析B	・評論の基本的な読み方を習得し、論理展開を意識しながら筆者の主要な見解をつかむ。			
	期末考査	体験と思索Ⅱ 評論Ⅳ	・他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解したうえで自らの考えを持ち、生きることについての考えを深める。 ・食べることに對しての意識の変化やコミュニケーションに関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で社会の変遷や他者と自分との関係性について自分の意見を持つ。	○	○	○
	課題考査	2学期の復習	・冬季課題より出題	○	○	○

3 学期	学年末考査	評論 V 評論解析 C	・科学技術や言語に付いての文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「AI」や「コミュニケーション」といった現代的テーマについて自分の意見を持つ。 ・論理構造を理解した上で、二つの文章を読み、その論旨を比較して考えを深める。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1 年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解している。 ・語彙力や漢字力を身に付け、活用することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・文章の構成と論理の展開をとらえ，学習課題に沿ってまとめることができる。 ・事柄が的確に伝わるように，表現のしかたを工夫することができる。 ・目的や場に応じて，効果的に話したり，的確に聞き取ったりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は，事前に教科担任に申し出る) (2) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも，自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
言語文化	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	精選言語文化（三省堂）
副教材	学ぶぞ 古文と漢文（尚文出版） 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考査	言の葉の森に分け入る 近代以降の文章編 1 小説一 古文編 1 古文入門 2 随筆 漢文編 1 漢文入門 2 故事成語	・日本語の言葉の響きや表記について考え、日本の言語文化の特徴について理解を深める。 ・作品の構成や場面設定に着目し、登場人物の心情の変化について理解する。 ・古典の世界に親しむことの意義を知ることによって言語文化への関心をもち、古文の言葉やきまりについて理解する。 ・「随筆」に描かれた筆者の心情について理解し、作品に込められたものの見方や考え方をとらえる。 ・古典としての漢文を読むことの意義を知ることによって言語文化への関心を持ち、訓読のきまりについて理解する。 ・故事成語に表れた教訓を読み取り、故事成語の現代における意義を考える。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○	○
2学期	中間考査	近代以降の文章編 2 詩 古文編 3 物語 漢文編 3 史話	・詩のリズムや言葉の響きに注意して読み、作品に描かれた情景や作者の心情について理解する。 ・設定を理解し、登場人物のおかれた状況や心情を的確に読み取るとともに、作品の世界観について考える。 ・史話に描かれた登場人物の言動や心情を的確に読み取るとともに、史話が読み継がれてきた意義を考える。	○	○	○

3 学期	期末考査	近代以降の文章編 3 小説二 古文編 4 和歌 近代以降の文章編 4 短歌と俳句	・場面や状況に置ける登場人物の心情を理解し、物語と現実との関係に注目して作品世界について考える。 ・和歌の特徴や技法について理解し、それぞれの作品に詠まれた情景や心情を読み取る。 ・短歌と俳句の形式を理解し、それぞれの作品に詠まれた情景や心情を読み取る。 ・歳時記等を活用しながら、俳句を実作する。	○	○	○
	課題考査	2 学期の復習	・冬季課題より出題	○	○	○
	学年末考査	漢文編 4 漢詩 古文編 6 日記・紀行 近代以降の文章編 5 小説三 SDG s 番号 16 : 平和と公正をすべての人に 戦争体験が語られた文章を読み、戦争がもたらしたものについて考えることを通して、平和でだれもが受け入れられる社会をつくる態度を養う。	・漢詩のきまりについて理解し、作品に描かれた情景や心情を読み取る。 ・日記や紀行文を読み、場面に描かれた作者の心情や、ものの見方や考え方をとらえる。 ・戦争体験が語られる背景について考えるとともに、作品世界が現代に問うているものについて考える。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1 年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文語で書かれた文章の特徴を理解することができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・作品に込められた作者の心情や、ものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈することができる。 ・作品を通して論理的に考えたり深く共感したり豊かに想像したりすることができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつけ、正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。（古典については別途指示） (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモを取る。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価する。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代の国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	新編現代の国語（大修館書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考查	1 ことばをひらく 2 日本語を使いこなす 3 わかりやすく説明する 4 聞く力を育む	・筆者の考え方を読み取り、高校生活を始めるにあたっての参考にする。 ・筆者のコミュニケーションに対する考え方を読み取り、コミュニケーションを上達させていくことに興味を持つ。 ・敬語の正しい使い方や類義語のニュアンスを理解し、適切に使い分ける。 ・相手に伝えたいことを、わかりやすく整理して話す。 ・接続表現に気をつけて読み、説明のしかたをとらえる。 ・問題提起とその答えを意識し、文章全体の構成をつかむ。 ・自分にとって必要な情報を意識して、メモを取りながら聞く。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題	○	○	○
2学期	中間考查	5 論理を読み取る 6 伝え合いのレッスン	・主張と根拠、具体と抽象、対比に着目することで、論理展開をとらえる。 ・具体例の働きをとらえ、具体と抽象の関係を考えながら読む。 ・話し合いの目的を意識し、目的に沿った話し合いの進め方を考える。	○	○	○
	期末考查	7 説明力を高める 8 情報と向き合う SDGs 番号14：海の豊かさを守ろう グラフとの関係に注意しながら論旨を理解し、海洋プラスチックごみ問題について考えを持つ。	・自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして効果的に主張する。 ・図との関係に注意しながら、文章を読み取る。 ・筆者の主張とその根拠の関係を吟味しながら読み、自分の意見を持つ。	○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題	○	○	○

3 学 期	学 年 末 考 査	9 他者を動かす	・さまざまな資料を活用しながら発表する。			
		10 社会に目を向けて	・筆者の主張を読み取り、それに対する自分の意見を持つ。 ・読み取ったことを踏まえて、自分の考えを広げる。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解している。 ・語彙力や漢字力を身に付け、活用することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・文章の構成と論理の展開をとらえ，学習課題に沿ってまとめることができる。 ・事柄が的確に伝わるように，表現のしかたを工夫することができる。 ・目的や場に応じて，効果的に話したり，的確に聞き取ったりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受ける際の約束事 (1) 忘れ物をしない。（忘れ物がある場合は，事前に教科担任に申し出る。） (2) 正しい姿勢で授業に臨む。 (3) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも，<u>自分なりに考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
言語文化	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	新編言語文化（大修館）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考査	現代文編 1 ことばと出会う 2 表現を味わう 古文編 1 古文に親しむ 漢文編 1 漢文に親しむ 現代文編 3 文化を見つめる	・言葉に興味をもつとともにその役割を理解し、日常使っている言葉を見つめ直す。 ・表現に注意しながら登場人物の人物像をとらえ、場面ごとの心情をとらえる。 ・古文の読み方や表現に慣れ、作者や登場人物の考えを読み取る。 ・漢文の特色を知り、訓読のきまりについて理解する。 ・筆者の主張をとらえ、日本文化の特色について理解を深める。	○	○	○
	SDG s 番号 11：住み続けられるまちづくりを 日本文化の特色について書かれた文章を読み、文化を保護し継承しながら豊かな社会をつくる態度を養う。					
2学期	課題考査	1学期の復習	・夏季課題から出題	○	○	○
	中間考査	古文編 2 随筆を楽しむ 漢文編 2 現代に生きることば 現代文編 4 物語を受け継ぐ	・文章の特色について理解し、作品に表れたものの見方や感じ方、考え方をとらえる。 ・言葉の意味を理解し、話の中で語られている教訓の意義を理解する。 ・小説の構成や、登場人物の心情の変化をとらえる。	○	○	○
	期末考査	古文編 3 物語の広がり 漢文編 3 古人に学ぶ 詩歌の調べ	・文体や表現の特色に注目しながら物語を読み味わう。 ・『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生についての孔子の考えを理解する。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深め、情景や心情を読み取る。	○	○	○
	課題考査	2学期の復習	・冬季課題から出題	○	○	○
3学期	課題考査			○	○	○

	学年末 考査	古文編 4 旅への思い 漢文編 4 漢文を楽しむ 現代文編 6 近代文学に触れる	・文章の展開に即して、登場人物や作者の心情を読み取る。 ・音読を通して漢文訓読の口調に習熟し、物語を読み味わう。 ・場面や登場人物の設定を的確にとらえながら小説を味わい、豊かな感性を養う。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文語で書かれた文章の特徴を理解することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・作品に込められた作者の心情や，ものの見方や考え方をとらえ，内容を解釈することができる。 ・作品を通して論理的に考えたり深く共感したり豊かに想像したりすることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。（忘れ物がある場合は，事前に教科担任に申し出る。） (2) 正しい姿勢で授業に臨む。 (3) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも，<u>自分なりに考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。（古典については別途指示） (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。黒板をしっかりと書き写す。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価する。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	探求論理国語（桐原書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○
	期末考查	評論Ⅰ 評論Ⅱ	・段落と段落の関係に注意しながら評論の基本的な文章構成を習得し、筆者の主張を読み取る。 ・対比や具体例に着目して筆者の主張を読み取り、言葉の可能性について幅広い視野から考えを深める。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○	○
2学期	中間考查	体験と思索 「書く」一問いを生む	・日常生活の出来事について深く考察した文章を読んで、自らの日常生活について振り返る。 ・意見文を書く際の問いの立て方について学び、「書く」ことについての基本的な姿勢について考える。	○	○	○
	期末考查	評論Ⅲ 評論Ⅳ	・「異文化理解」や「共生」という観点から筆者の主張を読み取り、自然と人間との関係について考える。 ・技術革新についての筆者の主張を読み取り、進歩する技術と人間のあり方について自らの考えをまとめる。	○	○	○
		SDG s 番号9：産業と技術革新の基盤をつくろう 13：気候変動に具体的な対策を 14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう 技術革新や環境問題に目を向け、問題解決に向けた取り組みについて話し合う。		○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題。	○	○	○

3 学期	学年末 考査	境界をこえて 評論 V 実社会	・「境界」という観点からさまざまな題材の文章を読み、多角的なものの見方を養う。 ・「人類学」や「社会科学」の観点から近代化の問題点について述べた文章を読み、現代の社会問題について考えを深める。 ・実社会で役立つ文章の書き方を習得し、自らと実社会の関わりについて考える。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・ 1 年間の復習	・ 春季課題あり。 ・ 新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり，根拠や論拠の吟味を重ねたりして，主張を明確にすることができる。 ・ 文章の種類をふまえて，内容や構成，論理の展開などを的確にとらえ，論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・ 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・ 人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は，事前に教科担任に申し出る) (2) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも，自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
文学国語	[国語]

履修学科	普通科 文系
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	文学国語（大修館書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	1年次の復習	・春季課題から出題する。	○	○	○
	期末考査	随想・評論（一） 小説（一） 小説（二）	・自然や身近なできごとを描いた文章に触れ、文学に親しむ。 ・登場人物の描写について考える。 ・語り手の役割を意識する。 ・文体の特徴や語りの構造について考える。 ・登場人物の心情や境遇について考える。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題から出題する。 ・読書に親しむ。	○	○	○
2学期	中間考査	詩・短歌・俳句 小説（三） SDGs番号6：安全な水とトイレを世界中に 14：海の豊かさを守ろう 水中の生物を題材とした文学を読み、生物の多様性と文化の関連について考える。	・韻文のリズムを味わう。 ・韻文の形式や表現の効果について考える。 ・構成や表現効果に注目する。 ・寓意的な表現の意味を考える。			○
		随想・評論（二）	・自然と人間との関係がどのように表されているかを考える。			
	期末考査	小説（四） 小説（五）	・人物関係や人物の境遇と心情について考える。 ・書簡体の表現について考える。 ・人物描写や表現効果に着目しながら作品のテーマについて考える。	○	○	○

3 学期	課題 考査	2 学期の復習	・ 冬季課題から出題する。 ・ 読書に親しむ。	○	○	○
	学年 末考査	随想・評論（三）	・ 幅広い視点で日本の言語文化の特徴について考える。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・ 1 年間の復習	・ 春季課題あり。 ・ 新年度の課題考査の範囲になる場合もある。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 文学的な文章の種類や特徴について理解している。 ・ 文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・ 我が国の言語文化の特質について理解している。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・ 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確にとらえ、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察している。 ・ 作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて解釈している。 【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査	・ 進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。 ・ 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・ 読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 教科書やノート等を準備し、忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身に付けたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。分からない語句は調べ、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。新しい気づきはメモをとる。 解答の根拠を確認し、自分で解答をまとめる練習をする。 (3) 復習…再度教科書を読む。授業ノート読み返してポイントを確認したり、問いをまとめ直したりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。 解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含めて解説をしっかりと読みこむ。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
古典探究	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校古典探究（数研出版）
副教材	学ぶぞ古文と漢文（尚文出版） さくらさく古文単語（浜島書店）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題する。	○	○	○
	期末考查	古文1 説話 漢文1 故事 古文2 歌物語 古文3 随筆（一）	・古文の言葉の特徴や使い方について知る。 ・漢文の言葉の特徴や使い方について知る。 ・和歌の決まりを知り、物語の内容をとらえる。 ・随筆に書かれた筆者のものの見方・考え方に触れ、自分の考えを深める。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題する。	○	○	○
2学期	中間考查	古文4 和歌・歌謡・俳諧 漢文2 漢詩 古文5 日記文学（一） 古文6 物語	・韻文の決まりや特徴を知り、作品を読み味わう。 ・漢詩の決まりや特徴を知り、作品を読み味わう。 ・当時の文化の特質を知り、日記に書かれたものと文化の関係について考える。 ・人物関係や人物の描写について考える。 ・登場人物の心情や境遇について考える。	○	○	○
	期末考查	古文7 随筆（二） 漢文3 史伝 古文8 歴史物語 漢文4 思想	・構成・展開に注目しながら、随筆に書かれた筆者のものの見方・考え方について考える。 ・歴史的背景を踏まえ、登場人物の心情や境遇について考える。 ・敬語の決まりについて知る。 ・物語の時代背景と人物の境遇や心情について考える。 ・諸家の思想のものの見方・考え方に触れ、自分の考えを深める。	○	○	○
		SDGs 番号4：質の高い教育をみんなに 諸家が思想を広めるために遊説した歴史的背景を踏まえて思想の内容をとらえ、現代の教育がどのように広められているのかと比較して考える。				

3 学 期	課題 考 査	2学期の復習	・冬季課題から出題する。	○	○	○
	学 年 末 考 査	古文9 軍記物語	・文学をととして歴史に触れることで、読書の意義と効用について考える。	○	○	○
		漢文5 文章	・構成・展開に着目しながら、作品に込められたテーマについて考える。			
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もある。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解している。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解している。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・「読むこと」において，古典特有の表現に注意して内容，構成，展開などを的確にとらえている。 ・「読むこと」において，古典の作品や文章について，内容や解釈を自分の知見と結びつけ，考えを広げたり深めたりしている。 【評価の対象】 課題，レポート，学習活動，考査	・古典作品に興味をもち，古典文学と現代の作品とのつながりや，日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。 ・作品の描かれた背景を踏まえて，作者の心情や登場人物の心情を理解しようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 教科書やノート等きちんと準備する。（忘れ物をした場合は，事前に教科担任に申し出る） (2) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 (3) 授業で身につけたい力，学べきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり，周囲と共有したりする。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも，<u>自分で考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…音読と語句調べに取り組み，内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…音読して古典のリズムに慣れる。重要単語や発表者の発言など，新しい気づきはノートにメモし，現代語訳を完成させる。発問については，解答の根拠を確認する。 (3) 復習…教科書を読み返し，授業ノートと照らし合わせて文章の内容や重要単語を見直す。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，解説の読み込みまで含めて取り組む。授業で扱った単語や文法事項などがあれば，復習しておく。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため，日頃の学習をおろそかにしない。 文章を何度も音読する。授業ノートを見直し，疑問点は質問するなどして，文章のあらすじや要点を理解しておく。宿題はテスト範囲の問題を何度も解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。古文単語はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し学習する。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	新編論理国語（東京書籍）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題 考查	1 年次の復習	・ 春季課題から出題。	○	○	○
	期末 考查	1 広がる風景	・ 対比構造や比喩表現に注意して読み、日常のコミュニケーションの在り方や学ぶことの意味について考える。	○	○	○
		2 考える手がかり	・ 具体例が示す内容を理解し、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、筆者の主張を読み取る。			
2学期	課題 考查	1 学期の復習	・ 夏季課題から出題。	○	○	○
	中間 考查	3 人間と知性	・ 文のつながりや事実と主張の関係に着目しながら論の構成を捉え、筆者の主張を読み取る。 ・ 「人間の知性」に関して考え方の異なる文章を読み比べ、自らの考えを深める。	○	○	○
		4 現実の中で 5 ものの見方	・ 論の構成における比喩表現の効果について学び、言葉と思考の関係について理解を深める。 ・ 提示された問いや根拠を整理し、説得力のある論証について理解を深める。			
	期末 考查	SDG s 番号14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさも守ろう 絶滅危惧種の現状を学び、問題解決に向けた取り組みについて考えを共有し合う。		○	○	○
		仮説を立てて検証しよう	・ 日常生活で起こる現象について理由や原因を考え、仮説に対する検証を文章にまとめる。			
		課題 考查	2 学期の復習			

3 学期	学年末考査	6 働くよろこび ・さまざまな観点から書かれた働くことに関する文章を読んで、自らと社会との関わり方について考える。 SDG s 番号 8 : 働きがいも経済成長も 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう 「働く」ことを通した社会との関わり方について考えたことを発表する。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1 年間の復習 ・春季課題あり。 ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	精選論理国語（三省堂）
副教材	漢字と語彙ビッグマスター2700 （尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題 考查	2年次の復習	・ 春季課題から出題。	○	○	○
	期末 考查	「情報社会」を生きるⅡ 言葉を見つめるⅡ	・ 情報ネットワーク社会の課題を明らかにしながら、情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめる。 ・ 多言語社会の現実や可能性について考え、社会的視点から言葉について考える。	○	○	○
	課題 考查	1学期の復習	・ 夏季課題から出題。	○	○	○
2学期	中間 考查	共生社会を創造する	・ 「福祉社会」に向けての課題と可能性を理解し、実現するために何が必要か、自分たちに何ができるかについて自分の意見をまとめる。	○	○	○
		SDG s 番号 3：すべての人に健康と福祉を 関連する統計資料を読み取り、徳之島の抱える課題を見つめ、自分たちにできることは何かを考える。				
		経済について考える	・ 本文を論理的に読み、文章の構成をとらえることで、筆者の主張を理解する。 ・ 社会的課題を経営活動と関連させて論じ、課題解決の方策を発表する。			
		SDG s 番号 1：貧困をなくそう 8：働きがいも経済成長も 10：人や国の不平等をなくそう 身の回りの社会的課題と経済活動を関連付けて考える。				

	期末 考査	国際社会を考える	・ これからの国際社会の中長期的な課題について考え、 共生社会の在り方を話し合う。	○	○	○
		SDG s 番号11：住み続けられるまちづくりを だれも取り残さない持続可能なまちづくりの在り方を考える。				
		心と向き合う	・ 筆者の主張を読み取り、心についてさまざまな視点か ら考える。			
3 学 期	卒 業 考 査	「リスク社会」を生きる	・ 筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	○	○	○
		近代・現代社会を考える	・ 論理的な文章や資料を読み、自らの考えを深め、自らの 言葉で意見を表現できる態度を養う。			

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・ 文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり，根拠や論拠の吟味を重ねたりして，主張を明確にすることができる。 ・ 文章の種類をふまえて，内容や構成，論理の展開などを的確にとらえ，論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	・ 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・ 人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は，事前に教科担任に申し出る) (2) 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも，自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり，覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き，正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
文学国語	[国語]

履修学科	普通科 文系
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校文学国語（第一学習社）
副教材	漢字と語句ビッグマスター2700 （尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	2年次の復習	・春季課題から出題する。	○	○	○
	期末考査	現代の小説（二） 現代の詩	・文学的な文章の種類や特徴について理解する。 ・作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめる。 ・詩の構成やリズム，比喩の効果に注目し，心情を読み取る。 ・比喩や平易な言葉に込められた固有の意味を理解し，詩に託されたメッセージを読み取る。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題から出題する。 ・読書に親しむ。	○	○	○
2学期	中間考査	創作をする 随想（二）	・言葉には創造や心情を豊かにするはたらきがあることを理解する。 ・作品に表れているものの見方，感じ方，考え方をとらえる方法を学ぶ。	○	○	○
	期末考査	近代の小説（三）	・他の作品と比較し，文体や表現の特徴や効果について考察する方法を学ぶ。	○	○	○
3学期	卒業考査	戦争と文学（二） SDG s 番号 10：人や国の不平等をなくそう 16：平和と公正をすべての人に 徳之島にも特攻隊の基地があった事実から，戦争に関連する他の作品を読んだり，意見文を書いたりする。	・出来事の経緯や人物の発言をもとに，心理を読み取り，戦争の体験をどのように意味づけるべきかを考える。 ・文章展開の特徴を意識しながら，各場面における登場人物の心情を読み取る。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 文学的な文章の種類や特徴について理解している。 - 文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 - 我が国の言語文化の特質について理解している。 【評価の対象】 課題，レポート，考査	- 内容や構成，展開，場面設定や描写の仕方，表現の特色などを的確にとらえ，内容を解釈する方法を学ぶとともに，解釈の多様性について考察している。 - 作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて解釈している。 【評価の対象】 課題，レポート，学習活動，考査	- 進んで表現上の効果や作品世界，そこに込められた心情などを理解しようとしている。 - 意欲的な態度で授業に参加し，主体的な発言や話し合いをしようとしている。 - 読書に親しむことで自己を向上させている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度，課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 - 教科書やノート等を準備し，忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は，事前に教科担任に申し出る） - 読む，書く，話す，聞く，のメリハリをつける。 - 授業で身に付けたい力，学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 - 積極的に自分の意見を述べたり，周囲と共有したりする。 2 勉強の仕方 ※どんなときも，自分で考えることが大切です。 - 予習…教科書の文章を音読する。分からない語句は調べ，内容の大筋をとらえる。 - 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。新しい気づきはメモをとる。 解答の根拠を確認し，自分で解答をまとめる練習をする。 - 復習…再度教科書を読む。授業ノート読み返してポイントを確認したり，問いをまとめ直したりする。 - 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。 解くことだけで満足せず，見直し，訂正，その後の理解まで含めて取り組む。 - 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため，日頃の学習をおろそかにしない。 授業ノートを見直し，文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き，正解した問題も含めて解説をしっかりと読みこむ。 漢字はテスト形式にするなどして，覚えるまで繰り返し学習する。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき，授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
古典探究	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	精選古典探究（大修館書店）
副教材	学ぶぞ古文と漢文（尚文出版） 重要古文単語 315（桐原書店）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	2年次の復習	・春季休業中課題から出題する。	○	○	○
	期末考査	古文1 説話 漢文1 故事・逸話 古文2 随筆	・説話が生み出された背景を知り、日本の文化や伝統についての認識を深める。 ・長文を読むことに慣れ、漢文を読解して鑑賞する能力を高める。 ・会話や敬語に注目し、登場人物の相互の関係を押さえる。 ・現代にも通じる感性や当意即妙の言葉による面白さを味わう。	○	○	○
		SDGs 番号 10：人や国の不平等をなくそう 古典を通じて我が国の文化や歴史・価値観を見つめ直し、社会人・国際人としての素養を養う。				
		漢文2 漢詩 古文3 物語（一）	・既習の近体詩の特徴と比較し、古体詩を読み味わう。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、生活や人生について考え、ものの見方、感じ方、考え方などを深める。 ・登場人物の心情や境遇について考える。 ・平安時代と現代の価値観を比較する。			
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題から出題する。	○	○	○
2学期	中間考査	漢文3 史伝 古文4 日記 漢文4 文章 古文5 物語（二）	・『史記』の文章に親しみ、司馬遷の描写力の見事さを読み味わう。 ・伝記の読解を通じて、そこに示されている人間観や歴史観を知り、人生や運命についての考えを深める。 ・作品の背景となる作者と社会の関わり、作者の境遇との関連について考える。 ・日記における表現の特色について理解する。 ・漢文で書かれた長文を読み、表現の巧みさや論述の仕方をとらえる。 ・場面の状況や人物の心理を正確にとらえる。 ・物語中の和歌や自然描写などを味読し、作品を取り巻く時代の習俗や文化的環境についての理解を深める。	○	○	○

	期末 考査	漢文 5 思想	・人間のあり方や生き方、ものの見方や考え方などについて理解し、その現代的意義について考える。	○	○	○
		漢文 6 長恨歌と日本の文学	・物語の展開を的確に理解する。 ・各作品を「長恨歌」と比較し、共通点と相違点を理解する。			
		古文 6 近世の俳諧	・形式・修辞について確認し、それぞれの俳風を鑑賞する。 ・思考・表現の方法について、現代に共通する点、現代とは異なる点を考える。			
3 学期	卒業 考査	古文 7 芸能	・古典芸能に用いられる言葉の美しさを味わう。 ・言葉の表現に、先行する古典がどのように生かされているかを知る。	○	○	○
		漢文 7 小説	・漢文で書かれた小説を読み、人物描写の特徴や、日本の小説との比較について考える。			

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解している。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解している。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・「読むこと」において、古典特有の表現に注意して内容、構成、展開などを的確にとらえている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査	・古典作品に興味をもち、古典文学と現代の作品とのつながりや、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。 ・作品の描かれた背景を踏まえて、作者の心情や登場人物の心情を理解しようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 教科書やノート等きちんと準備する。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身につけたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 2 勉強の仕方 ※どの場面でも、<u>自分で考える</u>ことが大切です。 (1) 予習…音読と語句調べに取り組み、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…音読して古典のリズムに慣れる。重要単語や発表者の発言など、新しい気づきはノートにメモし、現代語訳を完成させる。発問については、解答の根拠を確認する。 (3) 復習…教科書を読み返し、授業ノートと照らし合わせて文章の内容や重要単語を見直す。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。授業で扱った単語や文法事項などがあれば、復習しておく。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 文章を何度も音読する。授業ノートを見直し、疑問点は質問するなどして、文章のあらすじや要点を理解しておく。宿題はテスト範囲の問題を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。古文単語はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	新編論理国語（大修館書店）
副教材	漢字と語彙ビッグマスター2700 （尚文出版）

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題 考查	2年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○
	期末 考查	自己を見つめて 思考を深める	・自分自身を客観的に見つめ、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・現代社会において、将来どのような生き方をしたいか考える。 ・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を批判的に検討する。 ・困苦の妥当性を吟味し、より深く物事を考える。	○	○	○
		SDG s 番号3：すべての人に健康と福祉を 16：平和と公正をすべての人に 分からないことに対して、問い、考える姿勢を身につける。				
	2学期	課題 考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○
中間 考查		社会に向かって 視点を変えて	・それぞれの書類の目的を意識した、魅力的で説得力のある文章を書く力を身に付ける。 ・一つのテーマについて、複数の視点に立って考察する姿勢を身に付ける。	○	○	○
		SDG s 番号9：産業と技術革新の基盤をつくろう。 技術革新の課題や可能性について考える。				
	期末 考查	問いを深めて書く 現代を考える	・特定の抽象的なテーマから自ら問いを立て、小論文を書く力を身に付ける。 ・現代の事象について問いを立て、様々な視点からとらえ直す。	○	○	○

3 学 期	卒業 考 査	未来に目を向けて	・日本や世界が抱える課題に関する文章を読んで、社会への関心を高める。			
		SDG s 番号7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人が、安くて安全で現代的なエネルギーを利用できるようにするためにはどのようなことが必要か話し合う。			○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 【評価の対象】 課題、レポート、考査	・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1 授業を受けるときの約束事 (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。 (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。